

会報  
30号



函館の歴史的風土を守る会会報  
No.30 S 63.10.30  
発行所 函館の歴史的風土を守る会  
事務局 函館市五稜郭町43-9  
五稜郭タワー株式会社内  
電話 (0138)51-4785  
印刷所 双葉印刷 ☎ 53-7730番

オーストラリア駆け足旅行記

教育大函館分校 教授 奥平忠志

9年振りに国際地理学会議出席のためオーストラリアを訪れる機会を得た。成田空港は日本の真夏特有の湿度の高い暑さ、一夜明けて翌日早朝冬の真直中のシドニー郊外のタルマリン空港に到着、とは言ってもオーストラリアの冬は日本の晩秋の気候で、平地での降雪はほとんどない。それにしても完全な夏衣装で外へ出ると矢張寒い。

シドニーからは乗り換えで以前一年程生活したメルボルンに向う。シドニーっ子がメルボルンを馬鹿にする時必ず天気の良い悪さを口にするが、案の定メルボルンの天気は悪く、風が強くとりずリング(冷雨)、空港から目的地のモナッシュ大学まで約40km、勝手知ったる町と高を括ってレンタカーを借り、目的地に向うが、途中の街並みの記憶が薄れていて自信がなくなってきた。シティー(都心部)に入って、州政府・中央駅の歴史的建造物群に出会ってやっと記憶を取り戻し、無事大学の寮に辿り着くことができた。

到着した翌日大学の地理学教室を訪ねたが、幸いティーチング・スタッフ(教官)の顔触れはほとんど変わっておらず、早速昼休みは大学構内のクラブハウス(メンバーシップ制の教職員専用のレストラン兼パブ)で歓迎会を開いてくれた。日本の大学では考えられないことだが、昼でも大学構内で酒を飲めるのもお国柄のひとつである。

話題の中心は貿易で大きな黒字を出し、世界の経済大国である日本の一般的な国民生活であった。彼等の眼から見れば、私達の日常生活はきわめて文化的で経済的にも裕かなものであると映るらしく、私の今回のオーストラリア訪問も手厚い国の財政的な援助があると考えているようで(彼らの国際学会出席の費用の半分は連邦政府の負担が常識となっているから)、私が100%自費で、しかも借金を負っての出張であることはなかなか信じてもらえなかった。私は地理学研究者の端くれとして滞在期間中にいかにわが国が文化的に貧困であり、貴国がその点ですっとすぐれているかを知らせることの必要性を痛感し、実践してきたつもりである。

一週間のモナッシュ大学滞在后私がオーストラリアの

都市の中でもっとも気に入っている南オーストラリア州の首都アデレードに向った。函館-東京間の飛行時間(距離)が同じであるが、運賃は4割安く、機内のサービスも比較にならないほどよい。

ホテルを市内の中でもっとも古くから人の住みついた場所にとってもらった。大学・州政府庁・美術館・動物園・旧郵便局・総督公邸など19世紀末から20世紀初めに建てられた落ち着いた建造物がホテルの周りであって、1泊5千円は信じられない安さであった。入植当時の教会・建造物は州政府の監督下にあり、入口にナショナル・トラストの表示があり、入観料をとっている。建物の中には寄付金を訴えるパンフレットと募金箱があり、矢張建物を維持・保存してゆく上で州政府の財政的な援助では不十分であるようだ。係員にこうしたナショナル・トラストを維持・保存する上で問題点が何かを尋ねてみた。修理・管理費については州政府の援助でなんとかやってゆけるが、管理するための人件費がなく、市民のボランティアに依存している現状であるが、若い人達のボランティア活動参加が少なく無関心であり、将来が心配されるとのこと。今様の若者気質はどこも同じなのかと感じた。

もう2~3日滞在してみたいアデレードからメインの学会が開かれるシドニーに向い、金のないのに無理をして一流と言われるインターコンティネンタルホテルに宿をとった。後日このホテルが日本のセゾングループに買われたのを知って、日本の不動産資本の海外進出が反日感情を煽らなければよいがと思った。

シドニーはオーストラリアの玄関口で、経済的な中心地だけに近年移民の受け入れも多く、町の中心部やその周辺が低所得者層の居住地となり、アメリカと同じようにスラム化している地区が見られ、新しいオーストラリアの都市問題を抱えている。ポタニー湾に沿って開けた市街地の景観は古いものと新しいもの(例えばオペラハウス)が共存して調和を保っているが、日本やアメリカの資本がこの景観を破壊しないことを念じて止まない。

(歴風会 顧問)

## 港町・函館における色彩文化の 研究と題してハウスウォッチング

元町倶楽部 陳 有 崎

「開港場として欧米、アジアの文化導入の窓口であった港町・函館において、戦前に建てられた洋風木造建築物は豊かなペンキ色彩で塗られ、ハイカラな街・函館を印象づけている。本研究は①この洋風木造建築物の外壁下見板などに塗装された、層をなすペンキ色彩を分析し、その結果をコンピュータグラフィックスでシュミレートすることによって街並み色彩を再現し、復元的に考察する。②さらに現状の街並み色彩や他都市との比較分析を加えて、函館の色彩文化の形成とその変遷を明らかにすることを主たる目的としている。また③これらの研究成果をこれからの街並み色彩の豊富化と個性化に役立てるような実践として、実際の建物へのペイント実験を試みる。これは市民誰しもが容易に取り組むことのできる試みであり、しかも街並みに対して大きな効果が期待できる。」

(研究の目的より)

そんな理由で大好きな西部地区の町並みを隅々まで探究できる権利を得られると勝手に思い込み、研究費の中から会議、打合せと称して少しばかりの酒代もでるかと思えば、路上観察学、考現学を志す者には参加を拒否する理由は見当らない。

冬フェスティバルの準備が忙しくなりかけの頃、メンバーからトヨタ財団主催の研究コンクール、身近な環境をみつめよう」へ応募の報告があり、祭りの熱気もさめやらぬ3月に予備研究が認められたとの吉報があり、更に9月に入り、本研究が堂々と認知され、今後2年間の本格的な研究が始まることになった。

そしてその研究成果の一端が早くも8月の終戦記念日にNHKの電波にとびのり、戦中の心の暗い時代はまさしく建物までが暗い迷彩を施されていたと郷土史

研究家の落合氏の解説も入って全国ニュースとして伝えられ、周知された。ちなみにNHKはこのコンクールの後援に名をつらねているが、この全国版というのが審査員の耳目を刺激し、本研究費獲得に多大な貢献をしているという事も考えられ、ここに記して謝としたい。

またNHK放映に先立つまだ肌寒い7月には審査員のメンバーである画家、作家の赤瀬川原平氏が当地を訪れ、我々の研究を視察し、実際に下見板のペンキはがしも実践していただいた。氏の観察眼は流石に鋭くフィールドワークの道中に、その優しいまなざしの眼力を遺憾なく発揮され、寄道、よそ目を繰返し、普段われわれでは簡単に見すごす街並みの中にトマソン芸術とも呼ばれる対象物を次々と発見された。われわれの研究とその態度がチェックされるという受身の立場でメンバー一同大いに緊張したが、気さくな語りで接していただき、その2日間は楽しい雰囲気ですぐ終始し、むしろ赤瀬川氏の観察眼を観察する方に注意を奪われ、今後のハウスウォッチングの眼のつけどころなど一層ならず多層の興味を覚えるものであった。

これからの本格的な研究は今までより更に量の多い下見板のペンキサンプルの採集、建物の所有者、使用者関係者へのヒヤリングが中心となると思われるが、対象となる人も建物も老朽化が激しく、とりわけ西部地区の破壊から新築への再開発が急速に進行し、注目を集めている現在、早急にこの研究をおすすめるべきではないと、社会的任務を自負している。当然ながら市民の広範な協力を更に必要としていることも付記しておきます。

### ＝ (財) トヨタ財団について ＝

昭和54年トヨタ財団は創立5周年を記念し財団の姿勢を示すべく色々のプロジェクトを企画した。それに①「街と建物－明治・大正・昭和」と題する全国報告会がある。これは日本の近代化を具体的に示す歴史資料としての、いわゆる近代建築を日本建築学会が十数年に亘って調査作成した建築リストの報告会である。全国11地区で開かれた北海道地区報告会は、昭和55年ここ函館区公会堂で開催、道内は勿論全国各地より参加あり歴風会からも多数出席した。

②として「身近な環境をみつめよう」をテーマとする研究コンクールである。元町倶楽部の色彩文化研究が今回全国多数の応募者により選ばれた由、衷心より敬意と祝福をおくりたい。愈いよ、これからが本番、がんばってほしい。

民間助成財団の活動は常に行政に先んずるものでなければならない。行政が気付かないこと、あるいは軽視しがちなことを試行錯誤を重ねながらも手がけてゆきたい…と、これはトヨタ財団の言葉である。(編集者)

## 桔梗野台場 (三稜郭)

辻 光 王

### 1. 桔梗野台場

桔梗野台場は明治2年5月11日、政府軍の箱館総攻撃のとき、激戦が行われたところであるが、いまだここが戦場であったか全く知られていない。国道5号線と道々湯の川～上磯線の交わるところにある比遅理神社の境内が台場であった。

この台場は、五稜郭の副防禦線として築造された。箱館戦争で造られた台場の中では異色の台場で、直接道路を切断して胸壁を構築し、侵攻して来る方向に対して道路を直角に曲げる思い切った方法がとられている。

ここは交通の要所で、大川道(亀田新道)と本願寺及び湯の川に通じる交点である。

山の手では赤川、平野部では桔梗野、海岸では福山通り(現228号線)と有川通りの交わる処の3拠点を押さえることにより、亀田及び箱館への侵攻を阻止することが出来る。これらの3拠点はどれも交通の要で各々台場を築き備えたもので、桔梗野台場もその一つである。台場が造られたのは5月2日から5月10日迄の短い期間で赤川台場(四稜郭)の着工と時期が同じである。大きさも四稜郭に似ているが形は直角三角形をしている。

「南柯紀行」には、午前8時右手方向赤川及び神山から大川道をおよそ一里半の戦線で戦争が始まったとある。台場を結ぶ距離は、赤川(四稜郭)神山(権現山)から大川道(桔梗野)を経て海岸(福山通り)を結ぶ一里半というのである。

赤川台場及び神山台場の両台場から桔梗野台場まで3キロメートル余り、海岸(福山通り)と有川通りの交点から桔梗野台場まで2.8キロメートルであるから両者合せると、大鳥圭介の言う一里半と一致する。

又、「大川口の兵少なく辟易して2,3丁退きし故」とあり、このことは、柳の台場(桔梗野二ノ台場)が落ち、馬除堤から約300メートルのところにある桔梗野台場に引き揚げたことを意味している。また、衝鋒隊戦史によれば、「赤川の壁に拠る衝鋒隊は前面に一敵なきに至らしめ、11時には一隊を分派して苦戦している大川道の大鳥軍を援け、敵の横合より無二無三に突進して薙ぎ立てたるに、官兵、遂に堪り兼ねて数丁程退却して危しくも馬除堤を楯に踏み止り」とあり、柳の台場と桔梗野の位置関係が判る。なお、午後5時、政府軍の撤収で攻防は終わったのであった。

さらに、比遅理神社境内にある相撲の土俵場は、当時の砲座と殆んど同じ状態で残っている。明治9年に天皇がこの地にお立ちになられた記念碑もある。伝承

によると、天皇をお迎えした住民の代表は「こゝは何をした処か」と下問があった。その代表の者が「先年の役のとき賊が立てこもり抵抗した処であります」とお答え申し上げたところ、天皇の顔に微笑みが浮んだがすぐにけわしい顔になられ、あとは無言にされたそうである。天皇はこの役で戦死した兵士達のことを思われてのことであろうと、住民達は感涙にむせんだとのことである。

現在、この神社の境内には松の大木が茂っている。この松は、明治5年頃五稜郭から幼木を選び盛土の上に植えられたものである。つまり、台場が造られたのはこの松を植えた以前であったことを証明している。

### 2. 柳の台場

#### (桔梗野二ノ台場)

桔梗野台場から西の方へ約300メートルのところ馬除堤が北に伸びている。その小高い台地には深い谷と峻しい崖があり、ここが柳の台場があったところである。人呼んで守田の山という。

又、七重浜海岸道路から桔梗谷地を抜けて大川道に交わる道路がある。この道路は本願寺の信徒によって造られたので本願寺道路という。

当時大川道は人馬の通行は殆んどなく、馬除堤に備えると共に、本願寺道路にも備えるためこの台場が造られたのであった。この台場で5月11日午前8時、馬除堤を伝い侵攻してきた政府軍約300人が、台場を守っている伝習歩兵隊約100人との間で死闘を繰り上げたのであった。

だが、この台場は午前9時50分頃政府軍の手中に帰したのであった。

この戦闘に加わった政府軍の手記に「台場の近くに竜神を祀っており、境内に柳の木があった。そこに奇妙な形をした石に縄が張ってあったという。また社のところで大砲一門を分捕った」とある。

現在、流通センターの入口のところに一本の柳の大木がある。この柳の木が台場の名称となったのである。

### 3. 比遅理神社がなぜ桔梗野台場か

1. 大鳥圭介書「南柯紀行」に、神山・赤川より大川道を経て海岸に至るおよそ一里半の戦線で戦争が始まったとある。この3点を結べば丁度一里半で、口伝で榎本軍が測量をしていたとの話も裏付けされる。

2. 大川道(旧道)を切断して壘を造った跡が直角に曲がった道路でわかる。

3. 大川道(亀田新道)、本願寺道、湯の川道が交わる交通の要所である。

4. 東・西・南の三方(柳の台場を含む)が湿地帯に包まれた高台で防禦に適している。

5. 台場の南側は盛土で、東側に土を採った堀割がある。

6. 現在の相撲の土俵は当時の砲座である。

7. 明治5年頃、国道5号線が建設された。

その頃に植えられた松の木が盛土や土俵のふちに当時のままある。

8. 明治9年、天皇が行幸のとき「先年、賊が立籠り抵抗した所です」と住民代表が申し上げている。

(注:口伝)

### 函館新道計画変更案



9. この台場の西方にあたる本願寺道の橋の近くから、当時の弾丸が出土している。(要:調査)

10. スーパーニューウェイの附近からも弾丸が出土している。(要:調査)

## 88 ウォーターフロントサミットインKOBE

事務局長 工 藤 光 雄

小樽・函館・新潟・横浜・大阪・長崎・神戸の7開港都市から夫々報告があった。以下はその抜粋である。

### =神戸港よりの報告=

水際における真の意味での開発をめざして

神戸港を考える会 角本 稔

神戸港を考える会は一昨年9月海・港に刻んだ人々の営みを通し歴史を見直し、これからの街や港のあり方を考えようとの主旨で発足した、市民への問いかけの意味から港街界限を整理した「ポート・ウォッチング・マップ」を発行し会への理解を深めた。大学講師や商工会議所のメンバーを招きウォーターフロントの勉強会もした。港から離れた所にある北野町界限はTVとうで放映されたこともあり異人館街として有名だ。しかし海岸近くにも明治末から昭和初期にわたり建てられた、ネオルネサンス・ゴシック、古代ギリシャとかローマ風の近代洋風建築が現存していることは余り知られていない、銀行、官庁、貿易会社、船会社のオフィスとして使われている。だが他都市と同じ様に神戸の同地区の建物が様々の理由から取りこわされているのは残念に思う。当会ではこれら失われゆく建物に対し、その利用価値、必要性、景観といった様々な観点から検討し市民へ保存への働きかけをしてきた。

今回、当市に於いて開港7都市が一同に会し、ウォーターフロントの会議をもつことができ大変誇りとしている。

### =長崎港よりの報告=

毎年2棟ずつ壊されている洋館の保存運動について

長崎の洋館保存研究会 村田 明久

長崎は明年開港130年を迎える。45万の市民がすり鉢状の地形の中で生活する高密度の都市である。近年、港と市街地との距離が段々開いてきている。この遠因として考えられるのは、戦時の折、防諜上造船所が外部より見られない様、諸々の目かくし壁をつくったことであり、他の一つは高度経済成長期、街は商業地域を中心に発展し港がおろそかにされた事にもよるといふ。

長崎は坂と洋館の街として知られている。居留地内には55棟、市街地には80棟の洋館があり、実にこの数は日本全国の洋館の1/5を示めているという。しかし、これらの殆んどが明治初期の建物であるため老朽化がひどい、利用しながら何とか保存している建物もあるが、寿命がきているのが多い。この為年間2棟の割合で洋館が姿を消している。殊に残念に思ったことは長崎市のイベントホールを建てるため取りこわしがなされたことだ。洋館保存研究会では市民に洋館のことを知ってもらうことが取りこわしへのブレーキになると考え、3年前「長崎洋館建築地区」をつくり市民へアピールをした。洋館と肌でふれあうハウスウォッチングもした。その他洋館にまつわる歴史や、その時代の研究などもしている。

＝函館港よりの報告＝

文化財の価値はその場所にあるこそ意味がある

函館の歴史的風上を守る会 工藤 光雄

函館には約550年の歴史があり且つ北海道の政治・経済・文化発祥の地の1つである(ただし和人の歴史において)。昭和52年歴史的遺産である、旧北海道庁渡島支庁々舎が北海道開拓の村へ移築されることとなった。勿論、函館市及び函館市文化財保護委員会の決定によるものである。本会は歴史的遺産、文化財に相応する建造物は、ゆかりの地にあるこそ、はじめて価値があるとの主旨から爾来、今日迄歴史的遺構の保存・保護・活用を計るべく運動してきた。行政に対し積極的なアピールを、市民に対しては理解と協力を求めてきた。会発足のひき金となった旧渡島支庁庁舎は幸いにも現地で保存修復され、北海道の指定文化財となった。現在、旧渡島支庁庁舎は先きに国の重要文化財指定を受けた函館区公会堂と共に元町公園を構成し歴史的環境と併わせ、憩の場とし市民に受け入れられている。

函館で生まれ育ち現に日々生活している我々は、函

館の歴史的風上が、どのような形成過程を経てつくられたのか学ばなければならないだろう。又先人が残した遺産を大切に育て、これを子孫に伝える責務を担っている筈だ。これらのことが微力ではあるが当会の運動により広く市民へ浸透したことをよろこんでいる。

○現在、大正5年建造のハリストス正教会修復に当たり、協力キャンペーンを続けている。ハリストス正教会は昭和58年に国の重要文化財に指定された。函館を象徴する美しい代表的な建物である。

○長年、待望してきた「函館市景観条例」がこの4月に施行されることになった。これも当会10年間の運動の成果と考えている。

○市民むけの勉強会を継続して行っている。

○運動の一環とし、子供達の「ふるさと写生公募展」を行ってきた。毎回300～400点の応募があり、ふるさとを描くことを通じ、ふるさとを知り、愛し、大切による心を育ぐんでいってほしいと願っている。

○ウオーターフロント再開発と整備が進められているレンガ倉庫群の保存と再生が民間の努力でなされている。歴史的景観の保護をうたう当会として大きな期待と関心を寄せている。

## 水際からの小さいレポート

大平洋と日本海両洋へ広がる函館の海は、今深く暗く、豊かな想念を水際に立つ私へ語りかける。ベイはこだてに幾度か足を運んだ。今迄見かけなかった光景が目をつく。レンガの内壁を撫で乍ら先生が熱心に学生達を指導しているヒトコマである。さりげなくこの種のグループに訊く、「ウオーターフロントの印象は…」皆、一様に「見事だ、感動した」との答が返ってきた。単なるお世辞とは見うけられない。地許勢の感想も集めた。「スマートネ よくなった」と殆んどが歓迎ムードだ。勿論少数派だが批判者もなくはない。個人的な趣味やセンスの違いもあろうが、函館の独自性が感ぜられない、との声があった。横浜・神戸と変りなし、と言う。さて函館の独自性って一体何んだらう、と、函館・神戸の倉庫が同じ四角い入れ物なら、どこでこの「らしさ」が語られるのだろうか。倉庫と水際環境とか、倉庫の内部空間の展開方法とか、トータルな運用方法やら、ピアホールのメニューだけでも結構函館の独自性は演出できそうだと色々考えた。意見は多種多様の方がおもしろい。

今回のウオーターフロント再開発事業の評価を私な

りに整理してみた。この夏の賑いを見る限りでも成功したと思っている。評価した点を2つほど挙げてみる。

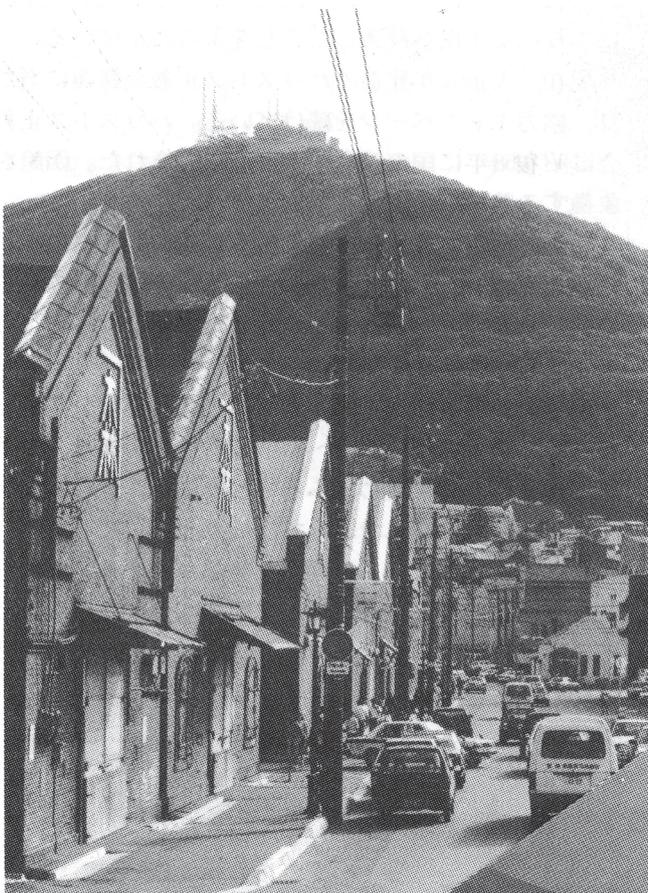
①金森倉庫とベイはこだてが別々のオーナーであるのに同じ設計者の手でなされたことである。ウオーターフロントが点ではなく面として再生できた。ここを核としたウオーターフロント全体構想を一日も早く明かにしてほしい。行政側の対応が一層求められよう。

②倉庫と言う本来箱の様な建物が始めて設計思想をもつ個性的な生きものになって再生した。別の言葉をかりると再生・活性化の鍵は設計者のイメージに負う所が大きい一と。

町並み先進都市・倉敷市の今日をつくったのは、大原総一郎氏と氏の友人である浦辺鎮太郎氏だといわれている。倉敷の保存再生に取りくんだ浦辺氏が倉敷アイビー・スクエア、大原美術館新館、駅前再開発などなど多くの設計・建築をし倉敷のイメージを見事に作りあげていったとか、函館西部地区にとっても倉敷方式は一つの手本であると思う。

(田尻聡子)

# 今、ウォーターフロントは……



## =ヒストリープラザ=

金森倉庫は1887年(明治20年)創業  
現在のレンガ倉庫は明治40年の大火後にできた函館を代表する風格ある倉庫群でオーナーは渡辺恒三郎氏である。  
今回弱に当たる倉庫が次の様になり多くの市民の眼をたのしませている。

### ○函館ピアホール

1898年(明治31年)金森の創業者が開いた「函館ピアホール」の名前を受けついでいう。

### ●金森ホール

### ○クラシックモール(店舗)

## =ベイ はこだて=

七財橋のたもとにある日本郵船所有の倉庫群である、明治40年の大火後に建てられたという。

4棟のうち2棟は老朽化が激しいため残念ながら姿を消した。残った2棟が、ベイはこだてとして再生された。圧巻は倉庫内部のデザインもさることながら、運河を挟みレンガ倉庫の2棟間をブリッジをつないだ水辺のたたずまいである。

ひところ湾岸道路計画で七財橋とりこわしが危惧された。若し同計画が当初の図面通りに進められたなら、今日のこの風情豊かな景観はなかった筈だ。地下の石川七財氏も安堵されただろう。

七財橋は1884年(明治17年)石川七財氏の監



督によりつくられた。

ベイはこだての事業主体は日本郵船と西武セゾングループ西洋環境開発である。

再生建築としての金森ヒストリープラザ・ベイはこだて。新建築としての函館山ロープウェイ展望台は共に岡田新一氏設計による最新3部作である。

(編集者)

## チンチン電車復元とナショナル・トラスト運動

函館のナショナル・トラストを語る会 石 井 満

### ◎会発足まで

人も自然界の一部でしかない。自然の摂理に従い、人は自然に対してもっと謙虚でなければ…漠然とそんな思いでいた時、千葉県佐倉市での第3回ナショナル・トラスト全国大会へ上谷市議と共に参加したのが3年前である。帰函後の報告集会で現在の函館における町並み保存や自然保護の状況とてらし、市民として一体どんな事ができるかを話しあった。

ナショナルトラストについては説明する迄もないが、市民、国民の一人一人が身銭をきって勝れた自然や建物とうの文化遺産を保存してゆく運動である。

「しれとこ100㎡運動」がまさに、これにあたる。報告集会の席上、ナショナル・トラスト運動は自然や町並みばかりではなく動いている連絡船や電車にも眼をむけては…の声があった。考えてみれば2年前、歴風会が、大切にしたい函館の原風景の一つとして宣言したのも実はこの「電車の走る街」であった、この宣言文の中に、こんなコメントが綴られていた。

古いから残すのではない  
 珍しいから残すのではない  
 人間が培ってきた営みを  
 この肌を感じ、この眼で見る事が  
 人間らしい生活につながる……

の言葉を思い出す一方、こんな中で戦時下男性に替わり市民の大事な足を守った人達である電車の女性運転手や車掌さん達と知りあった。彼女達の「電車の思い

出を語る会」と「函館のナショナル・トラストを語る会」、二つの会が電車への思い出を仲だちとしてチンチン電車復元の夢をふくらませていった。去る7月17日電車ゆかりの地ホテルアカシヤで「チンチン電車を走らせよう会」が発足し会長に元運転手の高島勝子さんを選んだ。

### ◎チンチン電車を走らせよう会 とは

会では現役で活躍しているササラ除雪車(愛称は雪2号)を製作当初の姿に復元し、明治・大正の面影をただよわす西部地区を走らせようとする会です。雪2号は1910年(明治43年)より千葉県成田市で就役していたが1918年(大正7年)函館水電機が成田電鉄から購入した五輦のうちの一つで、現役の電車としては日本最古と言われている。両端の運転席を切り取りササラ式除雪車に改造した。復元費用は総額3千万円を見込んでいる。内訳は雪2号購入費として、100万円復元設計費900万円、復元制作費は2,000万円である。復元後の電車は走らせよう会が所有し、管理運営は市交通局に委託する。町並みを走らせ乍ら保存を計る、いわゆる動態保存である。実現のあかつきには個性ある西部の町並みに一層の彩りを添えることができ、子供達には夢とロマンを…大人にとってはタイムスリップと郷愁への誘いとなる観光的文化財とも言えようか。

市の交通事業を担った女性運転手車掌さん達の歴史の証しでもある。この事がナショナル・トラスト運動理解への一層の高まりであってほしいと願っている、多くの中間の参加を心から歓迎します。

(歴風会運営委員)

(註) チンチン電車を  
 走らせよう会  
 会長 高島勝子  
 (自宅電話 41-1962)

事務局  
 函館市末広町4-19  
 市交通局協力会(26-0211)



昭和初期のチンチン電車

## 第9回ふるさと写生公募展入賞者 (敬称略)

函館市長	おおくらけんじ (亀田小1)	HBC函館放送局	さとうじゅんこ (亀田小1)
函館市教育委員会	岡崎淳郎 (亀田小5)	朝日新聞社	井下田寛 (亀田小5)
函館市美術教育研究会	山村あい (昭和小2)	毎日新聞社	和野陽介 (西中1)
函館の歴史的風土を守る会	市川恵 (高丘小3)	読売新聞社	茂木達 (昭和小3)
〃	後藤宜壮 (東川小3)	北海タイムス社	石本和也 (亀田小4)
〃	大倉貴広 (亀田小4)	北海道新聞社	高橋久美子 (昭和小5)
〃	吉田真由美 (高丘小4)	函館プロモーションビューロー	早坂綾子 (亀田小4)
〃	能登谷涼子 (東川小5)	〃	岡本恵美 (弥生小6)
〃	外山ユミ (昭和小5)	(株)サクラクレパス	谷川大樹 (三育小1)
〃	宮本達也 (昭和小5)	〃	加賀谷祐子 (東川小2)
〃	佐々木司 (西中3)	〃	菅原裕子 (昭和小5)
〃	森珠実 (西中3)	〃	滝口亮 (高丘小5)
NHK函館放送局	わだけいた (昭和小1)	〃	山中快子 (高丘小6)
	ひらきたかひろ (昭和小2)	〃	東将貴 (東川小6)

※ご後援下さった函館市・函館教育委員会・NHK函館放送局・HBC函館放送局・北海道新聞社・読売新聞社・毎日新聞社・朝日新聞社・北海タイムス社・函館美術教育研究会・赤光社・サクラクレパス・函館プロモーション・ビューローに対し御礼申します。

### 事務局だより

☆63年6月26日、NHK札幌放送局が、赤レンガ100年祭にちなんで、「北海道開拓の村」に復元されている歴史的建造物を通じて北海道開拓の歴史をふりかえる「ラジオでウォーク開拓の町」を実施しました。放送では「北海道開拓の村」と「函館・西部地区」を結びそれぞれの場所で建造物の現地見学(歴史散歩)の様を中継生放送しました。出演の要請がありましたので今田光夫前会長が参加いたしました。

☆63年7月10日 青函博開催記念国際シンポジウムが開催されました。内容は観光振興、交通網整備など、21世紀都市再開発のフロンティアとしてのウォーターフロント再開発による地域の活性化方策についてでした。浜島会長ほか多数参加しました。

☆63年7月17日 チンチン電車を走らせよう会の発会式がありました。当会もこれに参加、支援することになりました。

☆63年7月26日 日経トレンドィ(発行日経ホーム出版社)の福沢淳子さんが、函館の町並み保存、景観、建造物、ウォーターフロントなどの取材に来られました。今田、田尻、工藤の三氏が取材に協力をいたしました。その様子は10月号の日経トレンドィに掲載されております。

☆63年7月29日 第2回景観条例研修が、主催 北海道建築士会函館支部後援、北海道建築士事務所協会函館支部、函館の歴史的風土を守る会のもとで、五島軒本店で開催されました。当会からも多数参加いたしま

した。

☆63年8月1日～5日 主催 函館市・日本建築学会北海道支部のもとに金森ホールで、「函館・日本の町並み写真パネル展」を開催しました。当会はこの催しに後援をいたしました。

☆63年9月18日 上ノ国の史跡を訪ねてを実施しました。幸い天候に恵まれて北海道夜明けのまち上ノ国をたずね、歴史を学び神社、寺院、夷王山などを見学し日曜日にもかかわらず、ご案内、ご説明をいただきました上ノ国教育委員会学芸員齋藤邦典様に厚くお礼申し上げます。参加された皆様ご苦労さまでした。

☆63年9月22日～27日 第9回ふるさと写生公募展を開催しました。応募作品442点、入賞者28名で、応募作品は22日から27日までテオー小笠原4Fギャラリーに展示いたしました。

#### ・会費納入のお願い・

61年・62年度未納の方、よろしくお願ひします。

郵便振替一函館630

又は拓銀昭和通支店一026-293-407

宛先は、函館の歴史的風土を守る会

住所は、千代台町20-18です。

#### 〈編集後記〉

ご多忙のところ、ご執筆下さった皆さまに、心より御礼申します。(田尻)